2022 年 4 月 21 日(木) 大分合同新聞掲載

同行援護制度活用し外出を

いろいろな見え方を通じて　視覚障害の当事者から④

「同行援護」とは、視覚障害のある方がガイドヘルパーにサポートしてもらいながら一緒に外出する福祉制度のことです。私も視覚障害者になって初めて知りました。四字熟語のような何か分かりにくい言葉だなと思いましたが、通院や買い物はもちろん、散歩や映画、コンサートにも一緒に行くことができます。

視覚障害者でも知らない方が多く、ガイドヘルパーというお仕事の認知度も低いのが現状です。便利な制度であるにもかかわらず、同行援護事業だけでは事業所の経営が難しくなるという悪循環になっています。

以前、ガイドヘルパーの方に同行援護の仕事をする理由を聞いたところ、「私も初めて行く場所だったり、行きたいと思っていた場所だったりすることもあり、感動を共有できた上に感謝されることが一番うれしい。少しの時間でも一緒に楽しんでもらえるのであれば、いつでも利用してほしいという気持ちになるんです」と話していました。さらに自分自身の発見や利用者との対話の中に学びがあり、そこに面白さや奥深さがあるとのことです。

私は「助けてもらっている」という感覚だったのですが、ガイドヘルパーさんの「一緒に楽しんでいる」という言葉は意外でした。またそのヘルパーさんは「助けてもらう、助けてあげるとかではなく、一緒にお出掛けをするパートナーとよんでほしい」とも話されていました。この言葉に何か救われたような気がしました。

皆さんは新型コロナウィルスの感染拡大で、家で過ごす時間が増えて、外に出られないことが大きなストレスに感じませんでしたか？特に視覚に障害があると、コロナ禍と関係なく、どこに行っても迷惑をかけてしまうと遠慮して引きこもりがちになってしまい、精神的にも落ち込んでしまいがちです。同行援護制度を活用して散歩や外出に同行してもらい、気分転換をしてみてはいかがでしょうか。

（山元正史、大分県網膜色素変性症協会員）　＝随時掲載＝

山元さんのホームページのＱＲコート